



Steps to Academic Presentations



Japan Society for Multicultural Relations

Reiko Takeda

Mira Simic-Yamashita

Tomoko Yashima



EIHO SHA

Academic Presentationsへの誘い

近年、全国の多くの大学で英語科目のカリキュラムの改正が進んでいます。その中で、英語でのスピーチやプレゼンテーションを指導する授業も増えてきました。本書は、何かの研究課題（あるいは実証研究）に取り組もうとしている文系学部（心理や教育など）の2年生以上の学部生や大学院生を対象に、英語のプレゼンテーションの授業で使っていただけるように書かれています。発表の形態もさまざまありますが、本書では学術的な発表の方法を紹介し、実践練習ができるように構成されています。俗に「習うより、慣れろ」と言いますが、本書では「習いながら慣れる」、つまりプレゼンテーションについて学びながら演習を進めます。

本書の執筆に至った経緯を説明しましょう。

多文化関係学会 (Japan Society for Multicultural Relations) の年次大会では、例年、会員による日本語の研究発表が大半を占めていました。そこで2015年10月に岡山大学で開催された大会では、初の試みとして、大学院生や若手研究者のために英語で社会科学系の研究を発表できる場を設けました。

母語も研究分野も異なる4人の発表者は、応募したアブストラクトの採択後、約2ヶ月間かけて、ミラ・シミッチ山下先生（岡山大学）よりメールでご指導を受けながら準備を進めました。そして「ラウンドテーブル」という特別企画で、成果を英語で発表しました。発表後、八島智子先生（関西大学）からのフィードバックを基に、発表者はさらに研究発表のための英語力に磨きをかけ、研究への取り組みに役立ったとのことでした。

本書では、「ラウンドテーブル」の発表者への指導内容を中心に構成されています。本書の特色として、学術的な発表に不可欠なAbstractの書き方、Chunkingという記憶法、そして発表後の質疑応答や評価なども含め、発表前及び発表後の重要なステップにも言及しています。

尚、本書の各Unitには、TaskやPracticeがあります。皆さんの専門分野は多岐にわたることとされますが、本書では練習の継続性を考慮し、ひとつの専門分野で

練習ができるように執筆しました。多くの学生が今後、日本語と英語のバイリンガルで活躍できることを願い、本書のテーマにはBilingualismを選びました。

本書の出版にあたっては多くの方々が支えてくださいました。このテキストの出版を提案してくださいました田中共子先生（岡山大学）と奥西有理先生（岡山理科大学）に感謝いたします。またUnit 8のスライドの使用を快諾してくださいました奴久妻駿介氏（一橋大学博士後期課程）にはお礼を申し上げます。最後になりますが、本企画の実現に導いて下さいました英宝社の佐々木元社長、編集の下村幸一さん、営業の高野雄一郎さんにも改めて感謝いたします。

本書が、英語での研究発表に取り組む多くの大学生・大学院生の皆さんの一助となるよう願います。

著者代表

武田 礼子

Contents

Preface	Academic Presentations への誘い	iii
Unit 1	Academic Presentations : 種類と目的	1
Unit 2	Presentations : スタイルと効果	6
Unit 3	Abstract の執筆	12
Unit 4	Presentation manuscript の執筆 : (1) Introduction	18
Unit 5	Presentation manuscript の執筆 : (2) Body	24
Unit 6	Presentation manuscript の執筆 : (3) Conclusion	28
Unit 7	Chunking の記憶法	35
Unit 8	Visuals (スライド) の作成	41
Unit 9	Delivery & Pronunciation をわかりやすく	46
Unit 10	Questions & Answers : 基礎編	52
Unit 11	Questions & Answers : 応用編 (1)	57
Unit 12	Questions & Answers : 応用編 (2)	63
Unit 13	Next steps	69

Academic Presentations: 種類と目的

Objective

アカデミック・プレゼンテーションには、目的に応じた発表の形式があることを学びましょう。次のtaskについて英語でディスカッションをしましょう。

Task 1

What kind of topics are you interested in? Why?

Which topic would you choose for your presentation? Why?

一般的に「アカデミック・プレゼンテーション」と呼ばれている学術的な発表には、目的に応じて、いくつかの種類があります。

Task 2

大学の内外を問わず、これまで聞いたことがある発表を思い出してみましょう。どのような発表でしたか？

パワーポイントを使った発表 (Yes / No)

プリントを配布して進めた発表 (Yes / No)

ポスターを使った発表 (Yes / No)

複数の発表者による発表 (Yes / No)

その他の発表

学術的な研究発表には目的に応じて、以下のような代表的なものがあります。

1. 口頭発表

もっとも一般的な学術発表の形式が口頭発表です。多くの場合、研究の目的から始まり、研究方法、結果（データ）や考察の後、結論で締めくくる、という流れで行います。

- 発表(15分～20分)の後、質疑応答の時間(5分～10分前後)が設けられています。しかし時間が限られているため、聴衆とのディスカッションや交流を目的とはしていません。
- ひとつの口頭発表がひとつの会場に割り当てられているため、同じ時間帯に同じ会場内で複数の口頭発表が行われることはありません。

- 多くの場合、発表者が司会者を兼ねますが、学会によっては他の司会者が発表者を紹介することもあります。そのため同一、または類似した分野の複数の発表が前後して、同じ会場にスケジュールされます。

2. ポスター発表

多くの学会では、口頭発表以外に、ポスター発表の枠を設けています。

- ポスター発表とは発表の場であると同時に、聴衆とのディスカッションや自由な交流もあり、質疑応答も随時可能です。
- 広い会場で指定された壁や衝立にポスターを貼り、他のポスター発表者との発表が同時進行で行われるため、会場は活気に溢れています。
- ポスター発表も口頭発表と同様、研究の目的から始まり、研究方法を紹介しますが、研究の途中経過の発表を行うこともあります。
- 学会により異なりますが、ポスターの掲示時間は長くなります（通常1時間半から2時間）。ただし掲示時間内に実際に発表者が話す時間は1時間から1時間半ぐらいです。

3. ラウンドテーブル

海外の学会で頻繁に見られる様式です。文字通り、円卓を囲んでインフォーマルで活気のある自由な雰囲気での発表が行われます。

- 口頭発表と違い、ラウンドテーブルでは、取り組み始めたばかりの研究課題を紹介することも出来ます。
- 研究が完了していない発表者のために、聴衆から研究方法などに関するアイディアやフィードバックを聞けることを目的とし、それが今後の研究の参考にもなります。
- 通常、30分間の発表枠で同一、または類似した分野より2人の発表者が15分ずつの発表を行います。多くの場合、10分弱の発表時間のあと5分の質疑応答やディスカッションが続きます。

4. パネルディスカッション

2人から4人の発表者が、同一、または類似したテーマを異なる角度や立場から発表する形式です。

- 発表者はそれぞれの研究を発表し、そのあと発表者全員の見解をまとめることが多いのが特徴です。
- 通常、1人が20分から30分間の発表の後、次の発表者も同じ持ち時間で発表します。最後の発表者のあと、5分から10分前後の質疑応答の時間が設けられていることもあります。

このテキストでは準備の進捗状況に関わらず、口頭発表の演習があります。
英語での発表に慣れるために、最初に英語での自己紹介をしましょう。

**Next
steps**

You will introduce yourself to your classmates for 3 minutes.
First, take some notes on the following:

What is your name and what do you do? [Self-introduction]

What kind of studies are you interested in? [Academic interests]

What do you hope to find out? [Academic pursuits]



My name is Yuko Suzuki and I am a student at Japan International University. I major in intercultural studies. As a young child, I used to live in Texas, in the United States. The city where I used to live was close to the border of Mexico. Therefore, my elementary school had many children who spoke Spanish. At the time, however, I never understood why these children spoke Spanish but did not speak English. **【Self-introduction】**

Even after coming back to Japan, I have always been interested in speaking English and communicating with foreigners from other countries. However, when I started working as a volunteer in my city's international center, I met foreigners who didn't speak English or Japanese. Because they were people from Spanish-speaking countries who only spoke and understood Spanish, at first, I didn't know how to help them. Slowly I started to communicate with Spanish speakers through gestures and simple words I learned in my Spanish class in university. I then remembered my classmates from Texas. **【Academic interests】**

Now, I am taking classes in intercultural studies and bilingualism. I want to study and research more about the background of Spanish speakers in the United States because there may be something we can learn in Japan about how to help and work with foreigners in Japan. **【Academic pursuits】**